JAAF
Japan Association of Athletics Federations

陸連時報

2024 令和6年 9 月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目　次

■活動報告

キッズデカスロンチャレンジ実施報告

セイコーゴールデングランプリ陸上2024東京、第108回日本陸上競技選手権大会の2会場において、指導者養成委員会の普及活動として、キッズデカスロンチャレンジを開催しましたので報告いたします。

評議員会・理事会報告

2024年6月5日（水）に第91回理事会を、2024年6月21日（金）に定時評議員会を日本陸上競技連盟事務局内会議室にて開催いたしました。

「クリーンアスリートをめざして2024」完成

「クリーンアスリートをめざして2024」はトップアスリートにとって重要な情報のみならず、アンチ・ドーピングに関する知識をこれから学びたい学生のみなさんやアスリートを支えるご家族、指導者の皆さまにも分かりやすい内容が記載されています。ぜひご活用ください。

■大会観戦ガイド

令和６年度全国中学校体育大会　第51回全日本中学校陸上競技選手権大会

第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技
兼 第59回日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会

■事務局からのお知らせ

陸上でスポーツ界、ニッポンを変えていく！ RIKUJO JAPAN特設サイトOPEN
JAAF×SDGs　#LETSTHINK_ 2024年の取り組み募集！
リレフェス　キービジュアル公開！未来へつなぐ、笑顔をつなぐ。

information

- 個人情報の共同利用について
  https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/
- WRk対象競技会／広告規程について
  https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/
- 陸上競技場、長距離競走路の認定について
  https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/
- 代表選手派遣大会選考要項 2024年度
  https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/
- 代表選手派遣大会選考要項 2025年度
  https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/
- アンチドーピング／鉄剤注射の防止
  https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/

キッズデカスロンチャレンジ実施報告

指導者養成委員　徳田由美子

セイコーゴールデングランプリ陸上2024東京、第108回日本陸上競技選手権大会の２会場において、キッズデカスロンチャレンジを開催しましたので報告いたします。

■キッズデカスロンチャレンジとは？

キッズデカスロンチャレンジ（通称:デカチャレ）は、「走る」「跳ぶ」「投げる」を楽しく気軽に体験できるプログラムです。主に日本陸連が主催大会のサブイベントや競技場外の体験ブースなどで実施しています。このプログラムは、さまざまな種目を体験すること、遊びの延長で楽しく運動をすることを参加者に提供できます。そして、みんなで応援して、称えあう事で運動する喜びを分かち合うことができます。

■セイコーゴールデングランプリ陸上2024

世界陸連では5月7日を世界中の子どもたちが陸上に参加し、アクティブに活動することを祝福する“World Kids' Athletics Day”と定めています。今年はロジャー・バニスター（Roger Bannistar/英）が1マイルを人類で初めて4分を切った日から70周年の節目となる年であることから、世界を1マイルずつ繋ぐ、ワールドマイルチャレンジが活動のテーマでした。日本では、セイコーゴールデングランプリ陸上を活動の日とし、5月19日（日）、国立競技場Dゲート付近にて『ワールドマイルチャレンジ（10ｍチャレンジ）』を実施しました。

10ｍチャレンジはSEIKO光電管を使用し、本格的なタイム計測を行いました。また、活動エリアには、マイル達成の進捗状況がわかるワールドマイルチャレンジボードを設置し、チャレンジ後（計測後）にパズルピースを渡し、ボードにそのピースを貼ることでマイルを加算する仕掛けも行いました。

未就学児から中学生まで479名（延べ500名以上）と非常に多くの方々に参加いただき大盛況。また、WAには日本のマイルチャレンジの結果として、3マイルの報告をしました。

■第108回日本陸上競技選手権大会

活動①：にぎわい広場（体験ブース形式）での実施

6月29日（土）・30日（日）にデンカビックスワンスタジアムの北エントランス広場に設置された「にぎわい広場」にてキッズデカスロンチャレンジを実施しました。29日（土）は、新潟県スポーツ協会のスポーツキャラバンと称して他競技種目の体験ブースも多数並び（ラグビーやバスケ等）、多くの人で賑わっていました。一方、30日（日）は、雨天のため中止となり、キッズデカスロンチャレンジの活動は1日となりました。

今回、実施した種目は「ラダースプリント」「クロスホッピング」「ターゲットスロー」の3種目でした。ラダースプリントは、折り返し地点にコーンを設置し、往復走で光電管を使用したタイム測定を行いました。また、クロスホッピングやターゲットスローは年齢に合わせたチャレンジ（秒数・距離を調整するなど）方法で実施しました。また、参加者全員に缶バッジ、ターゲットスローで的入れに成功した場合は、難易度に合わせて金または銀バッジをプレゼントしました。参加者は未就学児から中学生まで167名（29日のみ）でした。

活動②：サブイベント（スクール形式）での実施

6月30日（日）9：35～11：00、メインスタジアム内で第108回日本陸上競技選手権のサブイベントとして実施しました。事前募集によって集まった小学1～4年生、50名が参加しました。

活動は、参加者を6チームに分け、3種目の合計得点を競い合うチーム対抗戦とし、実施種目は、「シャトルハードル」「フォワードスクワット」「メディシンボールカーリング」の走・跳・投の3種目としました。シャトルハードルは、リレー形式で各チームのタイムを計測、フォワードスクワットはリレー形式で立幅跳を行いチームごとの合計距離、メディシンボールカーリングは、得点ごとに区切られたエリアにメディシンボールを投げ入れて、チームの合計得点を出し、各種目の記録が順位付され、合計を競いました。各種目とも、10分程度の限られた時間の中でしたが、子どもたちは走・跳・投を通して正しい動きを学びつつ、体を思い切り動かし、挑戦することで得られる楽しさを体験し、非常に活気に満ちた時間となりました。また、大会アンバサダーである福島千里氏によるウォーミングアップや各種目へのアドバイスやデモンストレーション、そして参加者との触れ合いにより、子どもたちの笑顔が数多く溢れていました。

最後に、キッズデカスロンチャレンジを実施するにあたり、ご協力いただきました関係各所の皆さま、開催陸上競技協会の皆さま、補助員・ボランティアの皆さま、参加してくれた子どもたちと保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も、より多くの子どもたちが体験できるよう、全国へキッズデカスロンチャレンジの活動を広げていきたいと考えています。

評議員会・理事会報告

第91回理事会

日時：2024年6月5日（水）
13時31分～16時55分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE　9階
日本陸上競技連盟事務局内会議室

【議事内容】

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。尾縣会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1．第13期事業報告・収支決算

鈴木事務局長より事業報告及び収支決算について、小林監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。
（資料1及び本連盟WEBサイト参照）

2．第13期決算における収支相償の対応策

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、第13期決算における収支相償の対応策として、特定費用準備資金の国際競技会開催引当預金に5千100万円、及び新たな特定費用準備資金として人材育成事業引当預金に3千万円、合計8千100万円を積み立てることが原案通り承認された。

3．マラソングランドチャンピオンシップ2027の開催について

平野事業部長及び高岡強化委員会中長距離・マラソンシニアディレクターよりマラソングランドチャンピオンシップ（MGC）2027の開催について、資料に基づき、過去2回のMGC開催から、強化的視点として選考の透明性、競技レベルの向上、事業的視点としてスポーツコンテンツとしての高い評価、加えてMGC2027開催に向けてのポイントが説明された。

MGC2027開催に向けてのポイント

○選手強化と連動した仕組みづくりと、明瞭で明解な代表選考
選手・指導者にとって達成すべき条件や目標が明確となることで、トレーニングの質・量が高まりレベルアップにつなげる。また、所属先企業やファンにも理解される選考とすることで、多くの人が楽しめるマラソンコンテンツを提供する。

○陸上界を牽引する「マラソン」コンテンツの価値創造
4年に一度、日本のマラソンのトップ選手が全員結集するMGCを開催することで、マラソンの注目度や競技の価値向上が期待できると共に、陸上界・スポーツ界全体の盛り上げにもつなげる。

○全国で複数年を通したシリーズ化による「選考」・「強化」・「普及」の連動
全国各地、年間を通じてMGCシリーズを展開することで、日本のマラソン全体の活性化につなげる。
今後、開催場所と時期の調整、運営体制の構築・予算編成等が検討課題として挙げられることがあわせて説明されたが、開催の方向で調整することが原案通り承認された。

4．第109回日本陸上競技選手権大会・10000mの開催について

平野事業部長より第109回日本陸上競技選手権大会・10000mの開催について、資料に基づき説明があり、熊本陸上競技協会主催の第33回金栗記念選抜陸上中長距離大会2025との併催、開催地は熊本県・えがお健康スタジアム、開催日は熊本陸上競技協会との調整とすることが原案通り承認された。

5．東京2025 世界陸上競技選手権大会 競歩種目日本代表選手選考における選考方針について

山崎強化委員長より東京2025 世界陸上競技選手権大会競歩種目日本代表選手選考における選考方針について、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。（本連盟WEBサイト https://www.jaaf.or.jp/filesupload/202406/10_133244.pdf　参照）

6．能登半島地震に伴う復興支援活動報告および今後の活動について

平野事業部長より能登半島地震に伴う復興支援活動報告及び今後の活動について、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

承認された今後の活動は以下の通り。

○一過性の活動ではなく、継続した活動とするため、義援金の再開及び第2回チャリティーオークション、募金活動、クラウドファンディング等、寄付金・寄付活動に関する取り組み。

○募金やオークションの売上金は、日本赤十字社等社会事業を目的とする団体へ寄付、または内閣府等関連機関の助言も得て公益財団法人として問題がないよう使用する。

○募金・オークションの寄付先や使途の決定について専務理事に一任する。

7．2024年度地域活性化助成金の支払に係る利益相反取引

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、本連盟理事が代表理事及び業務執行理事を務める加盟団体（地域

陸上競技協会については任意団体であるため、その役職に類する者が所属する団体）への2024年度地域活性化助成金支払に係る利益相反取引が原案通り承認された。

〈報告事項〉

1．登録制度：2025年度からの団体成立要件（指導者資格の義務づけ）について

磯貝強化部長より、2025年度からの団体成立要件（指導者資格の義務づけ）について、資料に基づき報告された。

報告された登録制度：2025年度からの団体成立要件（指導者資格の義務づけ）については以下の通り。

○日本陸上競技連盟登録制度改革

第77回理事会（2022年8月29日）承認事項

・登録システムの変更

新たな会員種別の設定

①小学生種別の設定

②審判、指導者の種別設定

・団体成立条件の設定（2025年～）

小学生・中学生が登録する一般団体（学校を除く）で、1名以上のコーチ資格及び審判資格の保有者を義務化する

○施行方針（コーチ資格）

・2025年度から団体成立条件の設定

★コーチ資格の義務づけ　※審判資格は別途検討中

小学生・中学生が登録する一般団体（学校を除く）で、1名以上の有資格者（JAAF公認スタートコーチ以上）の登録を必須とする。

・2025－2026年度は移行措置を設ける。

措置：コーチ養成講習会の修了者※も認める。

※受講後4年以内

≪対象講習会≫

JAAF公認スタートコーチ養成講習会

JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会

JAAF公認コーチ養成講習会

※今後、コーチ資格義務づけの方針を明確化する方向で検討。

定時評議員会

日時：2024年6月21日（金）

13時26分～15時41分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE　9階

日本陸上競技連盟事務局内会議室

【議事内容】

評議員総数19名中出席者17名にて、評議員会の成立を鈴木事務局長が報告。大田評議員会議長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1．第13期事業報告・収支決算

鈴木事務局長より事業報告及び収支決算について、細田監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。

（資料1及び本連盟WEBサイト）

【資料1】　公益財団法人日本陸上競技連盟　第13期　収支決算書（前期比）

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）　（単位：円）

科　目	第13期	第12期	前期比
（1）経常収益			
1．基本財産運用収益	8,071,955	5,487,338	2,584,617
2．登録料受入収益	255,439,700	252,255,000	3,184,700
3．加盟金受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4．受取寄付金	17,497,000	10,556,000	6,941,000
5．受取委託金・助成金	174,454,431	239,524,293	△ 65,069,862
6．事業収益	1,308,771,891	1,165,098,122	143,673,769
7．その他事業収益	33,775,178	32,788,241	986,937
8．雑収益	9,832,711	6,324,429	3,508,282
経常収益計	1,812,542,866	1,716,733,423	95,809,443
（2）経常費用			
9．事業費	1,581,476,886	1,480,252,627	101,224,259
10．管理費	130,442,618	121,522,348	8,920,270
経常費用計	1,711,919,504	1,601,774,975	110,144,529
当期経常増減額	100,623,362	114,958,448	△ 14,335,086

「クリーンアスリートをめざして2024」が完成しました！ぜひご活用ください。

医事委員会

陸上競技は、「する」「みる」「ささえる」など色々な形でたくさんの人が楽しみ、愛されています。陸上競技がこれからもすばらしい体験をもたらしてくれるものであり続けるために、日本陸上競技連盟（日本陸連）はアンチ・ドーピング活動にも積極的に取り組んでいます。「クリーンアスリートをめざして」の初版が発行されたのは1997年でした。2021年版の世界アンチ・ドーピング規程においてアンチ・ドーピング教育の重要性が示されましたが、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が2001年に設立される前から、日本陸連はアンチ・ドーピング教育の重要性を認識し、いち早く教育啓発活動を実施しています。

「クリーンアスリートをめざして2024」はトップアスリートにとって重要な情報のみならず、アンチ・ドーピングに関する知識をこれから学びたい学生のみなさんやアスリートを支えるご家族、指導者の皆さまにも分かりやすい内容が記載されています。アスリートにとってドーピングがなぜいけないのかという理由から、ドーピング検査の実際、トップアスリートが抜き打ちの検査を受けるために必要な居場所情報の登録など、そして最後にクリーンアスリートであるためにはどのような行動をとるべきかが詳しく説明されています。

また、2021年版の世界アンチ・ドーピング規程において、「アスリートの健康」を守ることがアンチ・ドーピング・プログラムにおける最上位の目的として挙げられています。そこで、日本陸連では科学委員会・医事委員会・アスリート委員会の3つの委員会が協力して、「アスリートの健康を守ろう！～ウェルビーイングのためにできること～」のリーフレットを作成しました。スポーツにおける相対的エネルギー不足、月経周期とコンディション、鉄不足と貧血、指導者とともに健康について考えようの4つの項目について、それぞれ戸邊直人選手、寺田明日香選手、田中希実選手、海老原有希コーチがコメントを寄せてくれました。陸上競技にかかわるすべての人が「スポーツを通じて心も体も満たされたウェルビーイングな状態」であり続けるには、発育発達期にあるアスリートの健康を守ることが大切です。

「クリーンアスリートをめざして2024」と「アスリートの健康を守ろう！～ウェルビーイングのためにできること～」は日本陸連医事委員会ウェブサイトよりアクセスできますので、ぜひご覧ください。また、指導者の方には選手向けの教育場面などで、ぜひ広くご活用いただきたいと考えております。印刷版の冊子（カラーA4版）をご希望の際は、提供の検討をさせていただきますので、日本陸連事務局までご相談ください。

【クリーンアスリートをめざして2024】

【アスリートの健康を守ろう！】

大会観戦ガイド

令和6年度全国中学校体育大会 第51回全日本中学校陸上競技選手権大会

▼期日：令和６年８月17日（土）～20日（火）

▼場所：福井県営陸上競技場（9.98スタジアム）

〒918-8027 福井県福井市福町3-20（管理事務所）

TEL：0776-36-1542　FAX：0776-36-1542

▼アクセス：

JR福井駅西口バスターミナル ４番南西方面乗場

70運動公園線（道守高校先回り）運動公園南門下車（約20分）

JR福井駅西口から（タクシーで約15分）

北陸自動車道　福井ICから（車で約30分）

▼競技種目：

(1)男子（13種目）100ｍ、200ｍ、400ｍ、800ｍ、1500ｍ、3000ｍ, 110ｍＨ（0.914ｍ/9.14ｍ）、4×100ｍＲ、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）、四種競技［①110ｍＨ（0.914ｍ/9.14ｍ）②砲丸投（4.000kg）③走高跳 ④400ｍ］

(2)女子（10種目）100ｍ、200ｍ、800ｍ、1500ｍ、100ｍＨ（0.762ｍ/8.00ｍ）4×100ｍＲ、走高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）、四種競技［①100ｍＨ（0.762ｍ/8.00ｍ）②走高跳 ③砲丸投（2.721kg）④200ｍ］

▼問合せ先：(1) 大会開催前　〒918-8152 福井県福井市今市町5-10 福井市足羽中学校内「第51回全日本中学校陸上競技選手権大会実行委員会」 TEL：080-3719-6029

E-mail：fukui.rikujyo.2024@gmail.com　担当者：石井 輝

(2) 大会期間中 ８月17日（土）～20日（火）

［昼間］福井県営陸上競技場（9.98スタジアム）陸上競技大会総合案内所 TEL：080-3719-6029

［夜間］ドーミーインPREMIUM福井 〒910-0006 福井県福井市中央1丁目18-1　TEL：080-3719-6029

▼大会ページ：

https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1868/

第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技 兼 第59回日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会

▼期日：令和6年9 月7日（土）・8日（日）、予備日9月9 日（月）

▼場所：釧路市民陸上競技場

〒085-0064 釧路市広里13番地 大規模運動公園内

電話: 0154-37-7722

▼アクセス：JR根室本線釧路駅よりタクシー 15分

JR釧路駅より釧路バス豊美線（10番）「市民球場」下車、徒歩５分、または美原線「美原５丁目」下車、徒歩15分

釧路空港よりタクシー 40分

▼競技種目：(1) 男子【17種目】100ｍ、200ｍ、400ｍ、800ｍ、1500ｍ、5000ｍ、110ｍＨ、400ｍＨ、3000ｍSC、4×100ｍＲ、4×400ｍＲ、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6.000 kg）、円盤投（1.750 kg）、やり投

(2)女子【11種目】100ｍ、200ｍ、800ｍ、3000ｍ、100ｍＨ、4×100ｍＲ、走高跳、走幅跳、砲丸投（4.000 kg）、円盤投（1.000 kg）、やり投

▼問合せ先：大会事務局 〒084-0916 北海道釧路市大楽毛西2丁目32番1号　釧路工業高等専門学校 学生課学生支援係 第59回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局

TEL：0154-57-7221　E-mail：gakuseig@kushiro-ct.ac.jp

▼大会ページ：

https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1874/

事務局からのお知らせ

◇◆陸上でスポーツ界、ニッポンを変えていく！ RIKUJO JAPAN特設サイトOPEN◇◆

日本陸上競技連盟は、JAAF REFORMの実現に向けて「RIKUJO JAPAN」プロジェクトを発足いたしましたので、お知らせします。また同時に、特設サイトと第一弾の対談映像を公開いたしました。

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/news/article/20558/

▼特設サイトはこちら
https://www.jaaf.or.jp/rikujo-japan/

◇◆JAAF×SDGs　#LETSTHINK_ 2024年の取り組み募集！◇◆

日本陸上競技連盟は、2年前にスタートしたJAAF×SDGsプロジェクト「#LETSTHINK_（レッツシンク）」において、2024年も全国のアスレティックファミリーから、みんながずっと楽しく豊かに暮らせる社会の実現に向けた、“陸上”を通じた身近な社会問題・社会課題への取組を募集いたします。

募集期間：2024年7月12日(金)～10月31日(木)

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/news/article/20511/

◇◆リレフェス　キービジュアル公開！未来へつなぐ、笑顔をつなぐ。◇◆

2024年10月5日(土)～6日(日)に国立競技場で開催する「みんなでつなごうリレーフェスティバル2024」のキービジュアルが決定しましたのでお知らせします。

▼詳細はこちら
https://www.jaaf.or.jp/news/article/20581/

陸連時報編集委員

◇編集委員
尾縣　貢（陸連会長）
有森　裕子（陸連副会長）
風間　明（陸連副会長）
室城　信之（陸連副会長）
田﨑　博道（陸連専務理事）
山崎　一彦（陸連強化委員長）
鈴木　英穂（陸連事務局長）
石井　亮（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
平野　了
◇時報編集担当
日本陸連　広報

陸連時報編集室
〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869